

入選

私の心のワクチン

大分県 富来小学校 六年

宗安 優奈

約4年前に、新型コロナウイルス感染症が報告され、わずか数ヶ月で世界的な流行となりました。小学校が臨時休校になって、多くの学校行事が中止になりました。友達と会えず、さみしい思いもしました。

感染が広がって、感染者やその家族が差別やいじめにあいました。4年たった今、なぜ差別やいじめがあったのか考えてみました。コロナウイルスに対して、とんでもなく不安やおそれを感じて、そういう行動に走ってしまったんだな、と思います。

私のお兄ちゃんも、コロナウイルスに感染しました。私も家族だから、みんなからいじめられるのか、とても不安でした。でも、濃厚接触者ではなかったので、学校に行くことができました。

お兄ちゃんが良くなってから、いろいろ話をしてくれました。お友だちがアパートの玄関先まで、食べ物を持ってきてくれたり、はげましの言葉をもらったり、宅急便の人が贈り物を届けにきてくれたとき、玄関先の顔の見えない自分に、

「大丈夫ですか？ がんばってください。」

と、言ってくれたそうです。

学校に行ったときは、お友達が、

「待ってたよ、お帰り。」

と、やさしく声をかけてくれたそうです。

その話を聞いて、お兄ちゃんの友達みたいに、私もやさしく声をかけられる人になりたい、と思いました。困ったときこそ、人とのつながりが大事なんだな、と思いました。

最近は、コロナウイルスが五類になって、いろんな行動もできるようになりました。それでもまだ、コロナウイルスはゼロではありません。これから、私もいつ感染するかわかりません。感染しても、誰からもしやなことを言われたり、差別されることなく、安心して過ごせる環境づくりが大事だと思いました。

私は、新型コロナウイルス感染症のことを正しく知って、親切や思いやりの心で支えあって感染を予防する心のワクチンを大事にして、やさしく、あたたかな気持ちで行動できる人になりたいです。